

漁業・水産業のビジネスサポーター

 ニチモウ株式会社

2022年3月期 決算短信補足説明資料

2022年5月



8091

東証プライム市場



ニチモウ株式会社

2022年3月期決算

2022年3月期決算：売上総利益が改善、増益

売上高：1,154億円

食品・海洋・機械が牽引したが、
収益認識会計基準の適用により、微増収（+1.9%）の形に

営業利益：32億円

食品・機械が牽引、
期初計画を大幅に超過、大幅増益（+47.0%）

(単位：百万円)	2021年3月期	構成比 (%)	2022年3月期	構成比 (%)	前年比 (%)	期初計画 (2021年5月発表)
売上高	113,317	100.0	115,469	100.0	+ 1.9	110,000
売上総利益	9,926	8.8	11,319	9.8	+ 14.0	—
販売費及び 一般管理費	7,748	6.8	8,118	7.0	+ 4.8	—
営業利益	2,177	1.9	3,201	2.8	+ 47.0	2,000
経常利益	2,362	2.1	3,611	3.1	+ 52.9	2,300
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,491	1.3	2,754	2.4	+ 84.6	1,600

食品、海洋、機械、資材で全社売上高・営業利益の90%以上

(単位：百万円)		2021年 3月期	構成比 (%)	2022年 3月期	構成比 (%)	増減
全体	売上高	113,317	100	115,469	100	+1.9%
	営業利益	2,177	—	3,201	—	+47.0%
食品	売上高	71,970	63.5	72,583	62.9	+613
	営業利益	1,390	42.1	2,259	50.5	+869
海洋	売上高	17,619	15.5	18,414	15.9	+794
	営業利益	632	19.1	371	8.3	△261
機械	売上高	10,655	9.4	12,785	11.1	+2,130
	営業利益	796	24.1	1,239	27.7	+443
資材	売上高	10,055	8.9	8,749	7.6	△1,305
	営業利益	333	10.1	456	10.2	+123
バイオテックス	売上高	355	0.3	371	0.3	+15
	営業利益	46	1.4	57	1.3	+10
物流	売上高	2,559	2.3	2,456	2.1	△103
	営業利益	37	1.1	11	0.2	△26
その他*	売上高	102	0.1	108	0.1	+6
全社費用		△1,127	—	△1,270	—	△142

*その他売上高は、不動産賃貸業など。営業利益構成比は、全社費用控除前。

食品事業： すり身生産増、カニ通販向け販売堅調などにより増収増益

(単位：百万円)	2021年3月期	利益率 (%)	2022年3月期	利益率 (%)	増減
売上高	71,970	-	72,583	-	+ 613
営業利益	1,390	1.9	2,259	3.1	+ 868

- <すり身> (24.3%) 北海道における原料の水揚げが安定していたことに加え、南米すり身の生産が順調に推移したことにより、増収増益
- <鮮凍水産物> (40.9%) カニは未だ外食・観光業界向け販売が低迷する一方で、通販向け販売が堅調に推移、効率的な買付を行ったことで、増収増益
北方凍魚および助子は採算重視の販売に努め、減収増益
- <加工食品> (34.8%) 前年度巣ごもり需要の反動減があるも養殖銀ザケや寿司種の販売が順調、収益認識会計基準の影響で減収も、営業利益は増加

海洋事業： 養殖部門は増収増益だが、他の部門厳しく増収減益

(単位：百万円)	2021年3月期	利益率 (%)	2022年3月期	利益率 (%)	増減
売上高	17,619	-	18,414	-	+ 794
営業利益	632	3.6	371	2.0	△261

- <養殖部門> (49.4%) 成魚や養殖用資材の販売も回復し、配合飼料などの販売も堅調に推移、増収増益
- <漁網・漁具資材部門> (43.3%) 北海道沿岸における水揚げ不振による資材購買意欲が減退、官公庁向け漁具資材においてもコロナ禍での水産資源調査の見送り
- <船舶・機械部門> (7.3%) 船体一括案件の受注や船舶用機器類の販売は引き続き厳しい状況

機械事業： コロナ禍で加工食品機械需要は旺盛で国内外共に増収増益

(単位：百万円)	2021年3月期	利益率 (%)	2022年3月期	利益率 (%)	増減
売上高	10,655	-	12,785	-	+ 2,130
営業利益	796	7.5	1,239	9.7	+ 443

- <国内> (80.4%) 巣ごもり需要の継続や人手不足による食品機械への設備投資の拡大、感染リスク回避のための省人化により、各業界における受注が幅広く進む
- <海外> (19.6%) 新型コロナウイルス感染症の影響あるも行動制限が緩和傾向にあり、米国向け豆腐生産設備や台湾向け製麺機設備など大型案件を受注

資材事業： コロナ禍から回復で増益、原反加工販売は会計基準変更で減収

(単位：百万円)	2021年3月期	利益率 (%)	2022年3月期	利益率 (%)	増減
売上高	10,055	-	8,749	-	△1,305
営業利益	333	3.3	456	5.2	+ 123

- <化成品> (93.7%) 主力の住宅用部材シートや印刷用フィルムがコロナ禍から回復基調、包装資材も引き続き好調
原反(ロット)の加工販売は、収益認識会計基準の影響で大幅減収
- <農畜資材> (6.3%) 肥料・資材の販売が復調

貸借対照表（要約）：自己資本比率は26.6%

ロシア情勢対応などで水産物在庫を確保したため、商品及び製品が大幅増加。
上記の手当として現預金の取崩しと短期債務で対応

	資産の部			負債・純資産の部		
	(単位：百万円)	2022年3月末		前期末増減	(単位：百万円)	2022年3月末
流動資産		53,017	+ 7,471	流動負債	42,665	+ 10,250
現金預金		6,153	△3,775	支払手形・買掛金	13,378	+ 1,273
受取手形・売掛金		18,534	+ 3,387	短期債務	24,655	+ 7,995
商品及び製品		22,257	+ 6,745	契約負債	2,314	+ 503
固定資産		21,790	+ 2,184	固定負債	12,132	△3,335
有形固定資産		9,275	+ 1,709	純資産	20,066	+ 2,718
無形固定資産		725	+ 134	株主資本	17,713	+ 2,429
投資その他の資産		11,790	+ 340	その他包括利益計	2,214	+ 271
資産合計		74,863	+ 9,633	負債純資産合計	74,863	+ 9,633

- ・ロシア情勢による市況・コスト上昇・取引の不確実性を見込み、水産物の取引拡大、在庫を積み増しを図り、営業キャッシュ・フローが一転マイナスに。
主として短期借入金で対応
- ・養殖事業、水産物加工設備への投資を積極化（27億円、前期比+12億円）

(単位：百万円)	2020/4-2021/3	2021/4-2022/3	増減	主な要因
現金及び 現金同等物の期首残高	5,305	9,285	+ 3,979	
営業活動によるキャッシュフロー	+ 6,405	△5,539	△11,945	売上債権の増加△3,465 棚卸資産の増加△6,806 仕入債務の増加+1,251 契約負債の増加+502
投資活動によるキャッシュフロー	△1,295	△2,433	△1,138	有形・無形固定資産への投資 △2,797
フリーキャッシュフロー	+ 5,109	△7,973	△13,083	
財務活動によるキャッシュフロー	△1,109	+ 4,219	+ 5,328	短期借入金の調達+6,551 長期借入金の調達+100
現金及び現金同等物の 期末残高	9,285	5,571	△3,714	



ニチモウ株式会社

2023年3月期業績見通し

事業環境は、コロナ禍収束で好転へ向かうものの、
他方、政情不安や原価や資材・物流コスト高騰を見込み増収減益へ

ロシア情勢に起因するリスク 原料価格の高騰

- 地政学的リスクを織り込み減益
- 一部商品値上げによる販売数量減

早期買付でリスクヘッジし
減益を最小限に

原料価格・仕入状況が戻れば
一転伸長のチャンスに

成長事業における設備投資増

- 稼働前に一部設備の償却が開始、
販管費増

食品事業子会社の生産体制強化
により収益基盤が安定
中長期目標達成に向け
グループ業績を牽引へ

成長戦略として費用計上

堅調な需要を見込み増収だが、原料価格・物流コスト上昇など不確定要因あり減益を想定
売上高：1,200億円（前期比+3.9%）、営業利益：26億円（同△18.8%）

売上高：円安に伴う輸入水産物価格の高騰等による一部商品の販売価格転嫁を想定、数量は落ち込むものの増収へ

営業利益：①水産物と原材料価格の高騰による収益性の低下
 ②養殖事業など将来へ向けた積極的なマーケティングの展開による販管費の増加
 ③成長事業（陸上養殖・水産物加工）の設備投資増加による償却負担増

（単位：百万円）	2022年3月期	構成比 （%）	2023年3月期	構成比 （%）	前年比 （%）
売上高	115,469	100.0	120,000	100.0	+3.9
営業利益	3,201	2.8	2,600	2.2	△18.8
経常利益	3,611	3.1	3,100	2.6	△14.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,754	2.4	2,200	1.8	△20.1

- ・水産物の価格高騰等により主力の食品事業は増収見通し
- ・半導体、原材料不足による納入遅れ等の懸念から機械事業・資材事業は減収見通し

(単位：百万円)		2022年 3月期 実績	構成比 (%)	2023年 3月期 見通し	構成比 (%)	増減
全体	売上高	115,469	100	120,000	100	+ 3.9%
	営業利益	3,201	—	2,600	—	△18.8%
食品	売上高	72,583	62.9	80,000	66.7	+7,416
海洋	売上高	18,414	15.9	18,800	15.7	+385
機械	売上高	12,785	11.1	11,000	9.2	△1,785
資材	売上高	8,749	7.6	7,500	6.2	△1,249
バイオテックス	売上高	371	0.3	400	0.3	+28
物流	売上高	2,456	2.1	2,300	1.9	△156



ニチモウ株式会社

資本政策・株主還元策

営業キャッシュ・フローの用途：

借入金返済と積極的な設備・成長投資に配分し、企業価値を高めていく

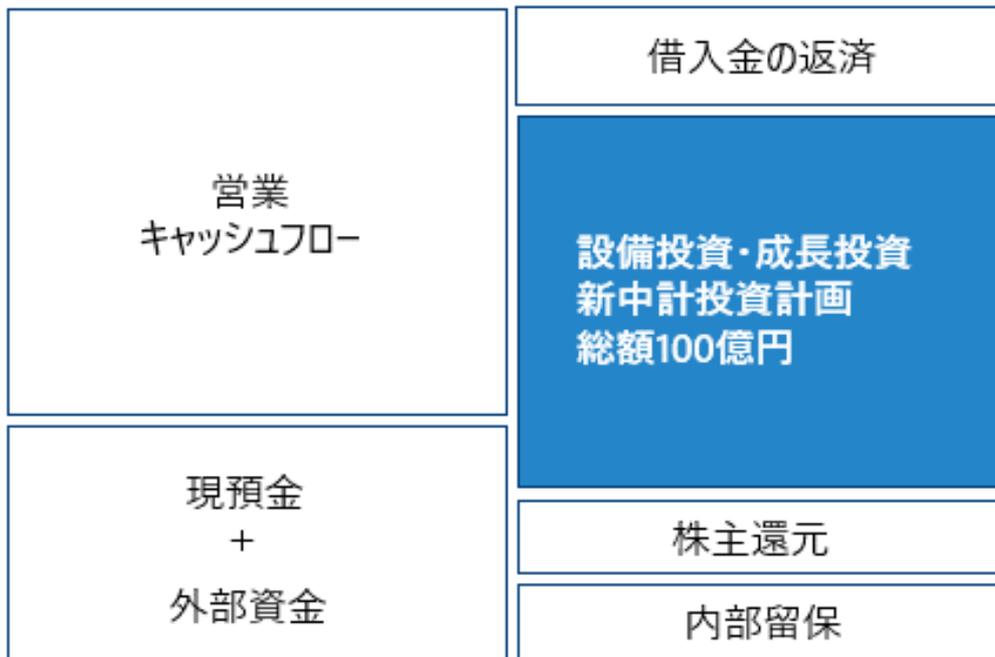
投資方針：研究開発、工場の新設・改修、企業買収など、

事業継続および新規事業に投下する資本については、

今中期経営計画の事業戦略上、必要と判断した内容に基づき計画・実行

現金流入

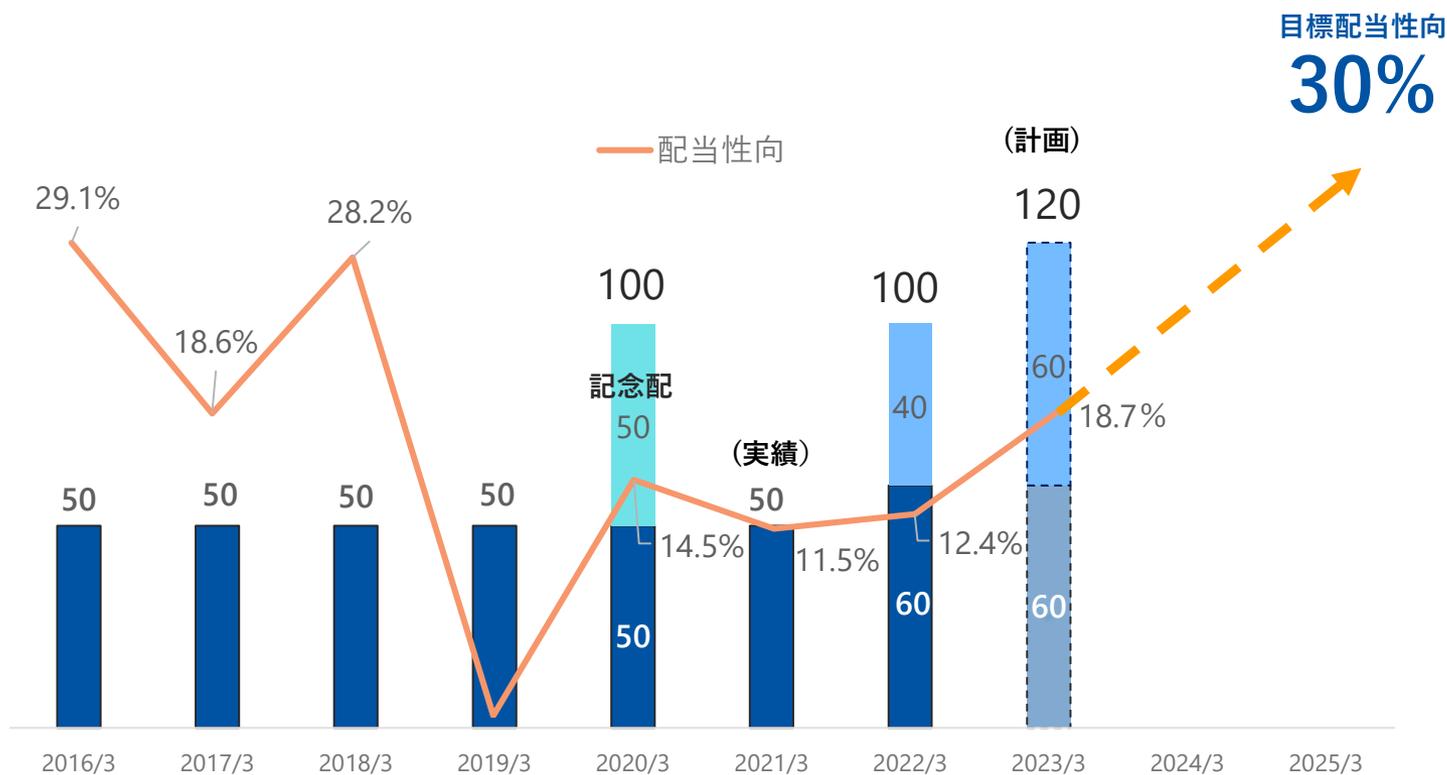
現金流出



- ①陸上養殖の事業化
（新規事業）：30億円
- ②バイオマス漁網の実用化
（研究開発）：10億円
- ③水産物加工の
安定供給体制を構築
（設備投資）：30億円
- ④M & A 資金
（既存事業強化）：20億円
- ⑤その他
（システム費用）：10億円

基本方針：安定配当、企業価値向上へ投資と内部留保のバランスを考慮

- ・ 2022年3月期：業績好調のため一株当たり100円（+50円）へ
- ・ 但し、当社配当性向は、依然、東証一部平均（約30%）と比べて低いと認識、新中期経営計画（2023年3月期～）から段階的に配当性向30%へ引き上げ



* 2017年3月期以前は併合前の数字を調整

■ 期末配当 ■ 中間配当 (単位：円)

本資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記載は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。また、本資料の著作権を含む一切の権利はニチモウ株式会社に帰属します。

IRに関するお問い合わせ
ニチモウ株式会社 総務部IR担当
E-mail : ir@nichimo.co.jp
TEL : 03-3458-3020

2022年5月